別記様式

会　議　録

会議の名称	令和８年度第７回戸田市外部評価委員会
開 催 日 時	令和８年１０月１６日（金）　午前１０時００分 ～ 午前１１時２０分
開 催 方 法	公室
出席者氏名	市　　長　　菅原　文仁　　副 市 長　　馬場　大介 委 員 長　　佐藤　徹　　副委員長　　長野　基 委　　員　　濱田　和輝　　委　　員　　田中　治夫 委　　員　　宮﨑　仁美　　委　　員　　饗場　順子 委　　員　　須永　由美子
欠席者氏名（委員）	無し
説明のため出席した者	無し
事　務　局	企画財政部　渡邉部長　山下次長 共創企画課　渡辺課長　石嶋主幹　藤田主任　大原主事
議　　題	答申及び意見交換
会議の経過及び会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 資 料	・次第 ・答申書及び別紙

（会議の経過）

発　言　者	議題・発言内容・決定事項
	１　開　会 ２　市長挨拶
市長	日頃から委員の皆様には本市の市政運営、そして今回の評価において様々な御協力をいただき感謝申し上げる。 ６回にわたる熱心な審議を賜り、それぞれの専門性や経験を踏まえた貴重な御意見をいただいたことは、大変ありがたく、心より御礼申し上げる。 今回の外部評価委員会では、子育て支援における成果指標の改善や、文化芸術政策の領域横断的な活用、生活困窮者・障害者支援施策におけるアウトカム指標の設定、交通政策における評価手法の見直し、就労支援における成果測定など、具体的で建設的な提言をいただいた。また、ロジック・モデルシートの更なる活用や成果指標の継続的な把握についても貴重な指摘をいただいており、これらの意見を今後の施策の推進や行政評価制度の改善につなげていくことが重要と考えている。 今年度、本市は市制施行６０周年を迎え、また、戸田市第５次総合振興計画後期基本計画がスタートした。本市が目指す将来都市像の実現に向け、皆様からいただいた御意見をしっかりと受け止め、可能な限り市政に活かしてまいりたい。 本日の皆様の感想なども伺いながら、今後の取組につなげてまいりたい。何卒よろしくお願い申し上げる。
	３　答　申 ４　意見交換
委員長	外部評価の意義は、書類を確認するだけでは分からないことを、質疑応答を通じて明らかにできる点にあると考える。今回の評価を踏まえ、特に重要な点として「活かす」「使いこなす」「引き継ぐ」の３点を挙げたい。 まず「活かす」について、評価で得られた意見をいつ、何に活かしていくのかが重要である。今回評価対象となった令和７年度は、前期基本計画の最終年度であった。外部評価の結果を後期基本計画の改定に活かすべきである

	が、令和８年度から後期基本計画はすでに始まっている。このことから、令和１３年度の計画改定に向けては、外部評価の結果をどのように活かしていくのかを考えていただきたい。 　次に「使いこなす」について、戸田市はロジック・モデルシートの活用など、先駆的な自治体として注目されている。一方で、ロジック・モデルシートの説明時に、記載内容を読み上げるだけになっている場面も見受けられた。説明資料としてだけでなく、施策の改善に向けた道具として活用することが重要である。例えば、健康増進に関する市民向け講座であれば、参加後の行動変容が市全体の健康増進につながるという流れを確認し、仮説と実際の結果とのずれや、成果を妨げている要因を見つけることで、改善のヒントが得られると考える。こうした活用が政策の発展につながる。 　最後に「引き継ぐ」について、ロジック・モデルシートの作成時にどのような政策的議論があったのかという問いに対し、担当部局が十分に回答できない場面があった。作成時の議論や考え方を記録として残し、組織として引き継いでいくことが重要である。
市長	ロジック・モデルシートについては、作成すること自体が目的ではなく、施策を改善するために活用することが重要であると改めて認識した。職員が日々の業務に追われる中でも、何のためにその仕事をしているのか、最終的にどのような成果につながるのかを意識できるよう、伝えていきたい。 　また、担当者が異動した場合でも、施策の目的やこれまでの経緯が引き継がれるよう、組織として対応していく必要がある。外部評価でいただいた御意見を真摯に受け止め、今後の施策の改善につなげてまいりたい。
長野委員	今回の評価では、長期間にわたって取り組んできた施策を評価できた点に意義があったと考える。根拠となる条例が制定され、施策を再定義・再設定するタイミングであったにもかかわらず、条例の内容がロジック・モデルシートに十分反映されていない事例が見受けられた。 　条例を制定したという事実だけでなく、その条例が今後どのように動いていくのか、施策の中でどのような役割を果たすのかを明確にする必要がある。また、取組がまだ関係者間の合意形成や準備の段階にあるのか、既に実行段階にあるのかといった位置づけも重要である。評価シートには条例の制

	定が記載されていても、ロジック・モデルシート上でその後の展開が見えなければ、施策の進捗や成果を適切に把握することが難しいと考える。
市長	施策の評価に当たっては、取組の実施状況だけでなく、その取組が何を目的としており、どのような成果につながるのかを明確にする必要があると感じた。
濱田委員	施策に投入する資源の方向性について、物価上昇が続く中では、事業を維持するだけでも予算が増加する状況にある。一方で、予算には上限があるため、最終的な判断を行う市長には、限られた資源を効率的に配分していただきたい。 また、民間企業ではＩＴの活用による業務効率化が進んでいるが、市においては、まだ十分に活用できていない部分や、予算の確保が難しい部分もあるように見受けられる。こうした取組を検討することで、より良い市政運営につながるのではないか。 施策２９（多様な働き方への支援・充実）については、企業を後押しするためのロジック・モデルが示されていた。特にスタートアップについては、創業するだけでなく、その後も事業を継続していくことが難しいという課題がある。創業支援に加え、その後のモニタリングやフォローアップも一体的に考えることで、企業の成長や地域の活性化につながると考える。
市長	限られた予算の中で、何に資源を投入し、どのような成果を目指すのかを考えることは非常に重要である。物価上昇などの外部環境の変化も踏まえながら、施策や事業の効果を確認し、必要な改善を行っていくよう心掛けたい。
田中委員	保育分野については、東京都などとの賃金格差は気になるところであるが、現場で働く方々から良い評価を得ていることは重要であると感じた。また、文化芸術分野についても、市が力を入れて取り組んでいることが分かった。 生活困窮者への支援については、外国人の利用も多いとのことであったが、支援のあり方については引き続き検討していく必要があると感じた。障害福祉については、親亡き後の問題が大きな課題である。物価が上昇する一

	方で、予算の確保も難しい中、どのように対応していくかが重要である。 　公共交通については、自身も将来的に運転免許の返納を考える時期が来るかもしれない。戸田市内でも、地域によっては買物に不便を感じる方が多いと思われるため、公共交通をより活用できるようにしてほしい。また、地域の活性化に向けては、商工会が中心となり、関係者が連携して取り組んでいくことも重要であると考える。
市長	市民の生活を支える施策については、制度や事業を実施するだけでなく、支援を必要とする方に適切に届いているか、実際にどのような成果につながっているかを確認することが重要であると考える。 　また、公共交通や地域経済の活性化など、複数の分野にまたがる課題については、担当部署だけで考えるのではなく、関係する部署が連携して取り組んでいく必要がある。施策ごとの目的を明確にしながら、市全体としてより良い方向を考えていきたい。
宮崎委員	戸田市には良いところが多くあるはずだが、市民からは「何もない」という声を聞くことがある。花火大会やボートなど、戸田市ならではの魅力が日常のものとなり、十分に認識されていないのではないか。市の特徴的な取組や魅力を積極的に発信し、市内外の方に分かりやすく伝えてほしい。例えば、駅に掲示するなど、目に触れる機会を増やすことも有効だと考える。 　文化芸術分野については、音楽活動などを行う団体が多くある一方、練習場所が少なく、特に安価に利用できる場所の確保が難しいと聞いている。利用のたびに抽選となるなど、活動を継続する上での課題もあるため、市民の文化芸術活動を支える場の提供について、ぜひ検討してほしい。 　また、教育分野では、戸田市の先進的な取組がメディアでも取り上げられている。戸田市に住むことで質の高い教育を受けられるというイメージを定着させ、定住者の増加にもつなげてほしい。
市長	市の魅力や取組については、実施していること自体が市民に十分伝わっているとは限らない。例えば、知名度の高い番組やイベントであっても、市がどのように関わり、何を目的として取り組んでいるのかが伝わらなければ、市の施策としての認識にはつながりにくい。

	重要なのは、何のために取り組んでいるのかを明確に打ち出し、職員が説明できるようにするとともに、市民に浸透させていくことである。文化芸術や教育を含め、市の魅力を発信する際にも、単に実施内容を知らせるだけでなく、その取組が市民や地域にどのような成果をもたらすのかを意識していきたい。
饗場委員	市が良い取組を行っていても、そのことが市民に十分伝わっていないと感じた。例えば、バスの運行状況をアプリで確認できるなど、既にあるサービスについても、市民が知らなければ利用につながらない。市民に向けた周知や情報発信をより積極的に行ってほしい。 戸田市が今後さらに発展し、子どもたちにとってもより良いまちとなるよう、引き続き取り組んでいただきたい。
市長	市民にとって有益なサービスであっても、知られていなければ利用されず、期待する成果につながらない。情報を発信する際には、単に周知するだけでなく、対象となる方に届いているか、実際の利用や行動につながっているかを確認することが大切である。 今後も、市民の関心や利用者の視点を踏まえながら、必要な情報が適切に届くよう努めてまいりたい。
須永委員	今回の外部評価は、市民サービスを受ける側の立場からは分からなかった、市が目標を持って施策を進めていることを知ることができる貴重な機会であった。一方で、良い取組が市民に十分伝わっていないことも感じた。市民の印象が大きく変わるような、インパクトのある取組を行うことも有効ではないかと考える。 また、普段から市の取組を把握しきれていない立場から評価することの難しさも感じた。今回の評価は、個々の事業の実施状況だけでなく、施策評価そのものの妥当性を確認するという側面があったと理解している。 民間企業では、計画を立てる段階と計画が終了した段階の双方で検討を行うことが多い。計画が終了した後に評価するだけでよいのかという点については、少し疑問が残った。

市長	外部評価を通じて、市の取組を市民の視点から確認していただくことには大きな意義があると考えている。市として何を目指しているのか、どのような成果を上げようとしているのかを明確にし、職員がその目的を共有することが重要である。 また、施策の成果を把握するためには、計画の終了時点だけでなく、取組を進める過程においても状況を確認し、必要に応じて改善していくことが求められる。ロジック・モデルシートを活用し、目指す成果と実際の取組との関係を可視化することで、施策の改善につなげていきたい。
委員長	今回の委員会では、各部局の職員が正直に「当時は今の部署にいなかったので把握していない」と答える場面が散見されたが、逆に言うと、意見を述べやすい雰囲気をつくることができたのではないかと考える。外部評価は、市の取組を一方的に評価するだけでなく、職員と委員が共に事業や施策について考え、より良い方向を探っていく場でもある。 ロジック・モデルシートは、個々の業務が最終的に何につながるのかを可視化するものである。職員一人ひとりがそのつながりを理解し、組織全体で共有できるようになれば、より効果的な施策の推進につながると考える。
市長	縦割り行政の問題については、企画財政部などの調整部門に対応を求めがちであるが、本来は各部局が自ら考え、連携して取り組むべき課題であると認識している。担当者が変わっても業務の経緯や内容を適切に引き継ぐとともに、必要な情報を確認し、責任を持って対応することが重要である。 また、職員が目の前の業務や書類の作成に追われる中でも、仕事の目的を見失わないことが大切である。例えば、ＮＡＳＡの清掃員が、自分の仕事を「人類の宇宙開発のため」と捉えていたという話があるように、個々の業務が大きな目的につながっているという意識を職員一人ひとりが持つことで、より良い施策につながるのではないかと考える。
長野委員	既にある取組や資源を組み合わせることで、個々の取組を単独で実施する以上の効果が得られる場合がある。例えば、商店会の振興と文化芸術を結び付けるなど、既にあるものを生かしながら、分野を横断した取組を検討してほしい。

市長	ロジック・モデルシートを活用して施策の目的や業務間のつながりを可視化し、職員間で共有することで、分野を越えた連携や新たな取組にもつなげていきたい。 今回いただいた御意見を今後の施策の推進や行政評価制度の改善に生かし、本市の将来都市像の実現に向けて取り組んでまいりたい。 5　閉　会